

まくせのやしろ
 万九千社 立虫神社
 社報
 神々の郷
 第四七号 平成二十六年秋
 「発行」十月吉日 代宮家
 (錦田)



今季の祭

万九千さん

「神々のふるさと」「神話の国」とも呼ばれるここ「出雲」。

全国では神無月とよばれる旧暦十月を出雲地方では神在月と呼び慣わしてきました。

これは、日本中の八百万神が、出雲へ参集されるとの伝承に基づくも

のです。

神在月には、私たちのお護りする万九千社において、神議の締めくくりと直会を催され、明くる日の早朝、再会を期して諸国へとお帰りの旅立ちをなさる、と言い伝えられてきました。

日本中の数え切れないたくさんの神様が、私たちの住まいするこの土地のお宮へとお越しになり、お泊まりになられるとは、誠に恐れ多くありがたいことです。どうぞ、御家族そろってお参り下さい。

なお、平成二十四年から龍神祭及び神等去出祭につきましては、旧暦に基づき祭祀を厳修しています。一方で、従来の新暦十一月二十六日には出雲へご参集の八百万神の御神徳にあやかり特別祈願祭を行いますので、ご承知おき下さいませ。



十一月二十六日(水)

早朝から日没まで

一、万九千社
神在月
特別祈願祭

八雲立つ出雲国に御参集の全国八百万の神々の御神徳を称え、参拝者の申し出に応じた特別祈願祭を行います。

また、八百万神の神前にて、来年の稲作の吉凶を占う特殊神事「御種組」も行います。

万九千さんが農業の神様として有名なのは、この神事に基づくのでしよう。

十二月八日

(月) 早朝

※旧暦の十月十七日にあたります

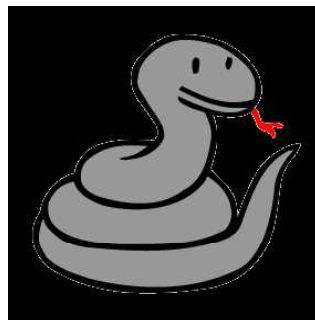
一、龍神祭、お忌み入り

龍蛇りゅうじやに導かれていらつしやるとされる八百万神を、斐伊川の河原でお迎えする祭です。

古くから、宮司一人が人知れず行う秘儀とされ、夜明け前に斐伊川の水辺で行います。

水辺での神事が終わると、宮司は神籬ひもぎ(神々の宿られる榊の木)に遷られた神々を万九千社へと御案内します。そこで、神迎えの祝詞を奏上し、当社はお忌み入りとなります。お忌み入りとは、神々の滞在や会

議を邪魔しないように、忌み慎んだ祭事や生活に入ることを言います。出雲地方では、神在祭のことを別名、「お忌みまつり」、「お忌みさん」と呼ぶことがあるのはこのためです。



十二月十六日

(火)

※旧暦の十月二十五日にあたります

一、前夜祭

戸を閉ざした社殿内で宮司ほか数名が奉仕します。神等去出祭を翌日に控え、あらためてお供えをして祝

詞を奏上します。

明日の神等去出祭を前に、宮司ほかの奉仕者が神社に布団を持ち込んで一夜を過ごす、お籠もりの神事も行います。

これには、神々のおそばで忌み籠もることで、心身の清浄を極め、靈魂を鎮める意味もあります。

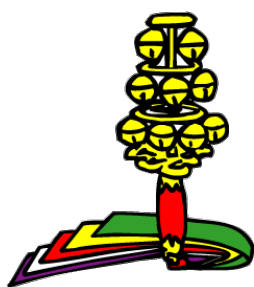
十二月十七日

(水)

※旧暦の十月二十六日にあたります

一、万九千社神等去出祭

万九千神社にとっては、一年で最も重要な祭儀です。宮司以下の神主等が昇殿し、古式に則って御奉仕しま



す。

御神前に、たくさんのお供え物を
して、当社にお集まりになって会議
をなさる全国の八百万神さまを静か
に厳かにおもてなしします。そのた
め神楽などの歌舞音曲を一切控え
て、僅かに鈴の音が響く中、静粛
に諸願成就を祈念します。

夕方日没の直前から、いよいよ神
等去出神事を宮司以下の神職が薄明
かりの中で御奉仕します。

この神事は、参集された全国の神
々に日頃の感謝を申し上げ、出立の
時が近づいたことをお告げする神事
です。今後とも全国の人々の幸をお
守りいただくべく御祈念申し上げま
す。

宮司が、社殿の御扉を梅の小枝で
叩きながら、「お立ち、お立ち、お
立ち」と三度唱え、神々に出発が近
いことをお知らせして神事を閉じま
す。

こののちは、神のみぞ知る時間と
空間です。神々の直会が始まるので

す。私たち人間は、神々の邪魔をし
ないようにと、一斉にその場から立
ち去らねばなりません

なお、夜間境内に立ち入ることは、
神々の神罰があたるとされ、日が沈
むと参拝者も露店も神職も一斉にお
宮を後にします。宮を後にします。

神等去出祭の様子

(撮影 松本一直氏)



今季の祭 その二

十一月

二十七日(木)

午後二時より

一、立虫神社

新嘗祭

今年収穫された新穀を神々にお供
えします。そして、宮司が祝詞を奏
上して、農業はもとより諸産業繁栄
の感謝の気持ちを申し上げ、人々の
さらなる幸福と弥栄を祈念します。
当日は、お供えされた際に、各戸
へ御札と御洗米を授与いたしますの
で、各家で大切にお祭り下さい。

※※※お供え、お米当番の方は、
午後一時までに、神社参集殿へお供
えのうえ御参拝下さい。よろしくお
願います。

御礼

謹啓 時下、益々御清栄の事と拝察申し上げます。

さて、このたびは当社の御遷宮につきまして、氏子の皆様には、御奉賛金の御積立はもとより、重ねましての御献納、さらには神具神器等の御奉納など、様々に御奉仕いただきましたこと厚く御礼申し上げます。

皆様のおかげをもちまして、万九千社は明治十一年以来となります百三十六年ぶりのお建て替えに伴う軸立正遷宮の諸祭儀、諸行事を、去る十月九日から十二日までの間、無事齋行することができませんでした。心から感謝申し上げます。

また、氏神様の立虫神社も、昭和六十三年以来、二十六年ぶりとなる御改修に伴う正遷座祭の諸祭儀、諸行事を同日四日間にわたり、皆様方と共に謹んでお仕え申し上げます。

た。誠に御同慶の至りと存じます。本当にありがとうございます。

大神様もさぞかしお悦びの事と拝察申し上げます。今年もまもなく神在月を迎えます。万九千社では、お建て替えの初めての神在祭、神等去出祭を、全国の八百万神をお迎えして、御奉仕申し上げます。新しい御神殿の神議りと直会がいつにもまして盛んとなり、御神威がいよいよますます蘇り、世の中のあまねく人々にそのおかげと幸が広がりますようお祈り致したく存じ上げます。

氏子の皆様におかれましても、どうか御遷宮によりまして蘇った大神様のはつらつな、清らかな御神徳をあますことなくお受けなさいまして、これから先も、お穏やかでお健やかな日々をお暮らしなさいますようお祈り申し上げます。

最後になりましたが、平成二十一

年の奉賛会設立時に御依頼致しましたとおり、当社の御遷宮事業にかかるとり、氏子奉賛金の積立は、平成三十年まで継続してお願いするものでございます。出費御多端の折ではございますが、近い将来の立虫神社中殿、拝殿の改修改築工事、永代にわたる清浄な御社頭の護持運営に備えまして、変わらぬ御理解と御協力を賜りますよう切にお願い申し上げます。

日に日に秋も深まり、寒さも増しますが、風邪など召されませぬようくれぐれもご自愛下さいませ。この度は誠にありがとうございます。右、略儀ながら御礼まで申し上げます。敬白

平成二十六年十月吉日

万九千社立虫神社宮司 錦田剛志
同 遷宮奉賛会会長 矢野幹雄

氏子の皆様